

シン・ポ・ジウム開催

「お城山の歴史と自然」 —その保存と活用を探る—

お城山は、小山田氏によって、要害城（非常の場合たてこもる城）として築城されて以降、歴代城主の手で整えられてきました。特に、秋元氏の頃には、宇治から運ばれる將軍用のお茶（茶壺）の一部を暑気の最中收藏する茶壺蔵も置かれていたと言われます。

このように数々の歴史の舞台と

なったお城山は城下町つるのシンボルとして、また、春は桜、秋は紅葉など四季折々の自然を楽しめる場所としても親しまれております。

SANTY・キャンパスタウン都留Tプラン「いまに生きる歴史の郷」づくりのためのシンポジウム「お城山の歴史と自然—その保存と活用を探る—」を次のとおり開催しますのでふるってご参加ください。

期日 5月14日（日）
時間 午後1時30分～4時
会場 都留市文化会館小ホール

今月のかっこいい

「旭小学校」

校庭の一边に根を張り学校の歩みをじっと見守り続けてきた桜の古木。今年も旭小学校の発展を示すかの如くきれいに咲き誇った桜の花も緑と化し、美しい自然の中



で近年すっかり改築された近代的な校舎、整えられたすばらしい設備を駆使して十名の教職員の弛まぬ努力により毎日の教育活動が進められている。

近年、児童数の急激な減少は教師と児童とのかわりを一層深め、子供一人ひとりの個性を生かし、伸ばす教育、学年の枠を外した異年齢集団活動は、六年生を中心に活発に行われてその成果が上がってきている。この様な活動ができるのも小規模校ならではの感がある。

すばらしい環境の中で、次代を担う子どもたちが、健康で逞しく豊かな人間性を備えた人として成長することを願って日々の実践に取り組んでいる。

旭小学校長 天野正之

パネラーと内容

窪田 薫氏（都留市郷土研究会会長）「お城山の歴史について」
萩原三雄氏（山梨文化財研究所調査研究部長）「お城山の縄張りについて」

今泉吉晴氏（都留文科大学教授）「お城山の自然について」

参加費 無料
申込・問合先

社会教育課社会教育係

☎（43）1111 内線214

主催 都留市教育委員会

都留市郷土研究会

ふるさとまつり（五月）



- 1日 メーデー 大神宮他
- 5日 端午の節句 市内各地
- 13日 儀秀稲荷大祭 西涼寺
- 14日 花まつり 耕雲院
- 20日 観音講 長安寺
- 21日 都留子どもまつり 都留文科大学他
- 28日 鬼子母神祭 信行寺

子供会シリーズ（21）

十四歳は他人



疾風怒濤の時代といわれる思春期を親はどのように子と係わっていけばよいでしょう。

自分に目ざめ、性に目ざめるこの時期は親の対応が一番難しい時といえます。小学生の頃は親の言うことはかなり受け入れます。親の言うことに反抗しても最後は従うのです。思春期は反抗して最後まで従うことをしなくなります。親や教師の示す道徳や規則からはみだそうとします。それは自主性が育ってきた証です。今までは親の庇護の世界で育って来ましたが、思春期になるとそれが檻のように見えるのです。その檻を壊して自分で生きようとして反抗するのです。

親に口答えはする。そうすると親は怒る。親も子もイライラする。そのイライラの吐け口を弟や妹に向けるようになることもあります。こうなっても、それは口だけで手

をだす事はありません。これは家庭内暴力ではありませんが、こうして反抗するとどうしても家の中は暗くなります。そのうちに帰宅時間は遅くなるようになります。親はどこにいたのかと根掘り葉掘り聞きだそうとします。穿（せん）さくがひどいと「ウルサイ」と言うようになります。また、今まで夏になると海に連れて行けとせがんでいた子が友達と旅行に行きたいとも言います。親が勉強しろ、勉強しろと言うと、自分の部屋へ行って漫画を見ているといった状況にもなります。こうなると、親も子も「イライラ」をいよいよ募らせるようになります。

十四歳は他人という事は、九歳親別れの頃から、生活のすべてにわたって少しずつ任せ、十四歳くらいになったら全部を任せてしまおうということです。生活のすべてを子どもに任せるといことは、子どもが自分で判断し、行動し、責任をもつということです。適当な切っ掛けをつかんだ時に、「今日からは一切世話をやかないから、自分でするように」と宣言するのです。親は遠くから暖かく見守るのです。子どもの方から相談を持ちかけたら、ゆっくりと充分話し合うようにするのです。そして最後の決定は、子ども自身がすることです。そうする事によって子どもの独り歩きができるのです。

教育相談室 ☎ 43-1111

内線 214